I　研究報告

令和２年度 遺跡整備・活用研究集会
開催概要

■ 開催趣旨

現在、文化庁ではLiving History（生きた歴史体感プログラム）促進事業を推進している。これは国指定・選定文化財を対象に、史料に基づいた歴史的な出来事の再現や往時の生活を体験する展示などのプログラムを開発し、文化財に新たな価値を付与し、日本文化の魅力向上とインバウンドの促進により地域活性化の好循環の創出を図るものである。各地の遺跡では復元整備などが進み、遺跡本来の景観や空間構成を取り戻してきているが、そこでの往時の人々の活動が再現されれば、当該遺跡の歴史上での意義や場所の意味がより一層理解されるようになるであろう。こうした動きについては先行事例がある。

史跡首里城跡では当時行われていた朝拝御規式や冊封儀式を継続的に再現している。特別史跡平城宮跡では平城遷都1300年記念行事の中で古代行事の再現が行われた。史跡斎宮跡や朝鮮通信使関係地では行列の再現等が行われている。史実、儀式の再現方法、現代的アレンジ部分、運営体制、儀式の再現における課題、史実をどのように伝えるか、観光との関係等について報告してもらい、現状と課題について共通認識を持ちたい。また、儀式そのものの再現ではないが、戦国大名や近世大名らの宴会での献立の再現「歴食」も行われており、遺跡での儀式再現同様の方法論で行えるのか、まちづくりでの活かし方等も考えたい。さらに、遺跡の本来的な性格に注目すると新たな活用の可能性が生まれてくるように思われる。平城宮跡では出土木簡に因んだ兵庫県養父市の地元の小学校から弊所への赤米献上隊があり、武蔵国分寺跡へは瓦の供給元の埼玉県鳩山町の瓦窯跡からの瓦運上隊があって、新たな地域間交流が生まれている。

遺跡本来の歴史的脈絡に因む遺跡の活用方法は、当時の意味を現代的に読み替えることによって遺跡の理解を助けるとともに地域のアイデンティティ形成にも寄与するものになり得るのではないだろうか。その糸口を探したい。

■ テーマ　歴史的脈絡に因む遺跡の活用－儀式・行事の再現と地域間交流の再構築－

■ 日　時　令和２年10月16日（金）　9：20～16：50

■ 場　所　奈良文化財研究所　本庁舎　大会議室

■ 事務局　奈良文化財研究所文化遺産部遺跡整備研究室
内田　和伸　　高橋　知奈津

■ 参加者　発表者・コメンテーター・事務局　計12名

■ プログラム

9：20 ～ 9：30	開会挨拶・趣旨説明
9：30 ～10：10	報告①「歴史的脈絡に因む遺跡の活用方法―主として平城宮跡を例に―」 内田　和伸（奈良文化財研究所）
10：10 ～10：50	報告②「特別史跡平城宮跡での古代行事再現 ―平城遷都1300年祭での事例について―」 立石　堅志（奈良市教育総務部文化財課）
	《　休　憩　》
11：00 ～11：40	報告③「首里城公園における再現イベントの実施について―朝拝御規式を中心に―」 幸喜　淳（沖縄美ら島財団綜合研究センター）
11：40 ～12：20	報告④「大内氏遺跡での宴料理等「歴食」再現と地域性 および中世の御成・茶会のたべもの」 江後　迪子（食文化研究家）
	《　昼　食　》
13：20 ～14：00	報告⑤「史跡斎宮跡の再現行事とその課題 ―史跡の歴史性とわかりやすいイメージのバランスの探求―」 大川　勝宏（斎宮歴史博物館）
14：00 ～14：40	報告⑥「朝鮮通信使再現行事―下関の事例を中心に―」 町田　一仁（対馬博物館）
	《　休　憩　》
14：50 ～15：30	報告⑦「南比企窯跡群と武蔵国分寺跡―瓦がつなぐ平成の国分寺造営―」 手島　芙実子（鳩山町教育委員会）
	《　休　憩　》
15：40 ～16：40	総合討議
16：40 ～16：50	閉会挨拶

研究報告

総合討議